

出前啓発活動

「誰にでも理解できる障がい啓発マニュアル」

倉吉市障がい者地域自立支援協議会
生活支援部会
平成 23 年 3 月 31 日作成

はじめに

倉吉市の障がい者地域自立支援協議会では達成目標として

「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し活動しています。

自立支援協議会では二つ専門部会に分かれて活動をしています。

地域生活支援部会では、地域の生活に密着した課題を取り上げて検討会を開催してきた中で、

「地域住民への障がいに対する正しい理解の啓発」を検討してきました。

大人への啓発も大切ですが、子供の頃から障がいについて正しい理解や興味を持ってもらうことで、思いやりの心やそれぞれの個性を大切に、共に支え合う社会をめざし、**[障がいの正しい理解～障がいは特別なことではないんです～小学校版]**として**マニュアル作成**をしました。

各団体、事業所とのネットワークにより、障がいが分かりやすいように工夫をしています。

また、話だけでなく体験学習や当事者とのふれあいも大切に考えて作成しています。

啓発活動をされる皆さま、小学校だけでなく中学校、地区の生涯学習会等、誰もが利用できるマニュアルですので、是非、活用していただければ幸いです。

問い合わせ先

倉吉市障がい者地域自立支援協議会事務局

倉吉市障がい者地域生活支援センターはっぴい

電話 0858-22-6239

Fax 0858-23-7122

Eメール happy@nojima-hospital.or.jp

目次

- ・はじめに・・ 1 p

- ・学習の流れ・・ 3 p, 4 p
（小学校をイメージ）
- ・学習の流れ図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 p

- 障がい別マニュアル**
- ① 聴覚障がいのある方とコミュニケーション・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 p
（協力団体：コミュニケーション支援センターふくろう）

- ② 重度心身障がい者のある方の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 p, 8 p
（協力団体：肢体不自由児者父母の会）

- ③ 視覚障がいのある方の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 p, 10 p
（協力団体：身体障害者福祉協会 視覚部）

- ④ 発達障がいのある方の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11 p
（協力団体：鳥取県自閉症協会）

- ⑤ 知的障がいのある方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 p

誰にでも理解できる障がい啓発活動シナリオ（小学校90分授業版）

当日の流れ（進行）

1、あいさつ・自己紹介（司会）＜5分＞

みなさん、こんにちは。

私たちは、倉吉市障がい者地域自立支援協議会の「みんなが笑顔でくらすまちづくり」レンジャーです！メンバーを紹介します。（〇〇です。△△です。・・・＜名字のみ＞）

今日はみなさんに「障がい」について理解し、どうすればみんなが暮らしやすい社会（町）になるかを考えてもらいたいと思ってきました。

2、導入（司会）

みなさんは「障がい」と聞いてどんな事を思い浮かべます（イメージします）か？

（問いかけのみ）答えがいくつかでたらアドリブで答え次へ進行する。

3、DVD視聴（司会）＜15分＞

この機会に皆さんと一緒にかんがえてみましょう。ここに（鳥取県が製作した）DVDがあります。まずは観てみましょう。

4、当時者とのふれあい

①聴覚障がい者とコミュニケーション（テキスト1）＜20分＞

目的：伝えるということはことばだけではない。伝えようと思う気持ちがあれば伝わる。

「わかるように伝えた」と体験することで、障がいがある無い関係なく、コミュニケーションは同じだと理解する。

②重度心身障がい者の生活（テキスト2）＜10分＞

目的：自分では動けなくても話せなくても楽しい・悲しい・怖い・・・気持ちはみんなとっしょです。外見は人それぞれ違うけど、感情はみんなが同じだと理解する。

（休憩＜5、6人グループに分かれる＞）＜5分＞

5、クイズ＜5分＞

障がいに対する正しい理解を目指すために、これまでの話の内容から復習の質問や標識を使って

2、3問の質問をする。

（例題）

- ・質問1、今日、聞いたコミュニケーションの方法はいくつありましたか。
- ・質問2、障がいの種類ってどのくらいあると思いますか。
- ・質問3、ハートフル駐車場（車いすマーク）・・・どんな意味があるのか。どんな所に使われているのか。

- ・質問4、身体障がい者標識・・・・・・・・・・
- ・質問5、耳マーク（聴覚障がい者標識）・・・

6、グループワーク＜25分＞

今の自分たちに何ができるのかグループで考えてもらい発表してもらおう。

＜準備品＞

(模造紙・マジックまたは、付箋に個々に書いてもらって貼りつける)

- ① 車いすに乗って買い物に出かけている人がいます。そのときにその人が不便だなあと感じることを考えて見ましょう。
- ② 私達にできることは何でしょうか・考えて見ましょう。
- ③ グループで発表

7、まとめ＜5分＞

今日の授業の中で障がいについていろいろ勉強しましたね。

「私たちは、目が見えにくくなるとめがねをかけ、歯が無くなると入れ歯を作り、足が不自由になると杖で補うなどそれは自然な姿であって不思議には思いません。

障がいがある方にとっては、自分の生活の不便な部分を道具や援助を受けて補っているだけで、特別なことではありません。ごく普通のだと理解できたらいいですね」

障がいって？

- ・ 病気や事故はいつ起こるかわかりません。同じように、障がいはいつでも誰にでも生じ得るものなので、だから、自分がそうだとしたらどうして欲しいのか？と考えてできることをして欲しいと思います。
- ・ 障がいは多種多様で同じ障がいででも一律ではありません。障がいの種類も程度もさまざまであり、同じ障がいで、その症状は同じではありません。だから、その人はどうして欲しいのか？と思うことが大切です。
- ・ 今日は、聴覚障がいと重度心身障がいのことを知ってもらいましたが、外見で分かるものだけでなく、外見では分からない障がいもたくさんあります。目に見えないために周囲に理解されず、苦しんでいる方もおられます。
- ・ 何が不便で障がいと言っているのか理解をし、障がいを身近なものと考えることができたら、きっと「誰もが笑顔で暮らすまち」になると思いませんか？これからも機会があったら障がいについて勉強をしていって自分にできることを考えて下さい。

＜注意事項＞

- ※ あいサポーターのDVDは障がい種別によって見る場所が異なり選択できる。
- ※ 4については障がい種別により内容が異なり選択できる
- ※ 5のクイズ、7のまとめは4の選択により内容を変更する

1 学習の流れ図



2 ……色で塗れた部分が今回の 90 分版のマニュアルになります

3 ※1 ……DVDでは「全障がい」を紹介できますが、学習内容や時間にあわせ「障がい」を選択できます。

※2 ……「聴覚障がい、重度心身障がい、視覚障がい」については実際に**ご本人**に来て頂きます。「知的障がい」については障がいのある人の気持ちを理解するため、本を利用し具体的な場面を紹介・寸劇などをします。「発達障がい・自閉症」については協会の保護者の方を招きDVD視聴、疑似体験、寸劇で特性などを紹介します。

※3 ……進行状況によって省略できます。

① 聴覚障がいのある方とコミュニケーション

{当事者の方が参加します}

《ねらい》

- ① 音声を主としてコミュニケーションを取っている聞こえる人に、視覚的なコミュニケーションの体験をしてもらう。
- ② いろいろなコミュニケーション方法があることを知る。
- ③ 伝えようとする気持ちを引き出し、伝わる楽しさを経験する。

《進め方》

状況に応じて対応する（机がある無い。人数など。）

- ・ 一列にならぶ
- ・ 人列が多くても6，7人の人数になるようにする

コミュニケーション方法について説明（5分）

- ① 説明ごとに種類別のカードを黒板などに貼っていく
 - ・ ジェスチャー
 - ・ 手話
 - ・ 指文字
 - ・ 筆談
 - ・ 空文字
 - ・ 読話

伝言ゲーム（15分）

- ① 各グループに分かれる。
- ② 一番前の人だけに答えを見せる。
- ③ その答えを身振り等で次の人に伝える。（声を出さずに伝えてみよう。）
- ④ 一番最後の人まで伝わったら、答えを書いてもらう。

◎答え方

（聴覚障がい者へ答えを伝えることになるので、子どもたちが自由に伝える方法を考えてもらう。手話通訳を通すのではなく自分で考えることが大切。）

《まとめ》

伝えようとする気持ちの大切さを確認する

② 重度心身障がいのある方の生活

{当事者の方がいっしょに参加します}

《ねらい》

・当事者とのふれあい



後津

こんにちは

自己紹介

倉吉市生田に住んでいる 後津由佳です そしてお母さんです

今 由佳さんは 21 歳になります

きょうはみんなも少し緊張していると思いますが、由佳さんも緊張していますので少しリラックスさせて頂きます

「わはっは」 「わっはあ」 「ギョギョ」

(由佳を笑う様子を見てもらう)

おやこ劇場にも入っていて、例会に参加しています。皆さんの中にもあったことのある人があるかもしれません

よろしくお願いします

由佳さんは、2歳の時に、事故にあっけしき、歩くこと、お話することが出来なくなりました。

しかし、今の由佳さんはみんなと同じように、テレビを見て、内容もわかるようです。テレビを見ながら、笑ったり、泣いたりします

自分の気持ちはみんなに伝える時は、顔の表情で判ります。笑顔は楽しい時です。笑っていても、悲しいと思っているなど思える笑い方をすることもあります。何度か由佳さんと一緒に過ごすと、由佳さんの気持ちが少し判るようになると思います

由佳さんは、小さい時はひまわり保育園に遊びに行っていました

倉吉養護学校に高校生まで通学しました。 また、小鴨小学校へにも行っていました。

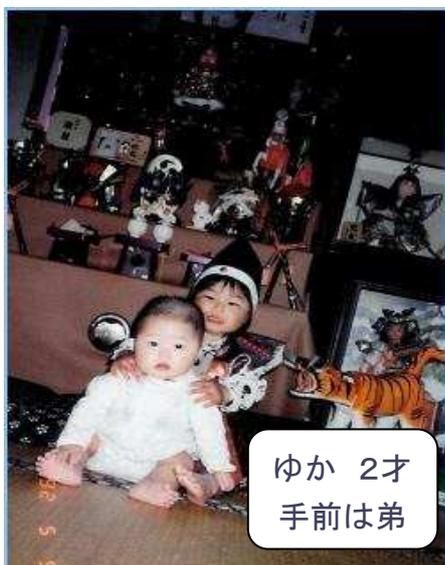
由佳さんの今までの生活を写真をみてみましょう

車いすの方は、歩くことが不自由なので、車いすという道具をつかって移動します。車いすがあれば、階段以外はどこでもいけます。

由佳さんも 皆さんと同じように、楽しいことが好きです、まちで出合ったら笑顔で声をかけてください。

『こんにちは』は知り合いになれる一歩です。

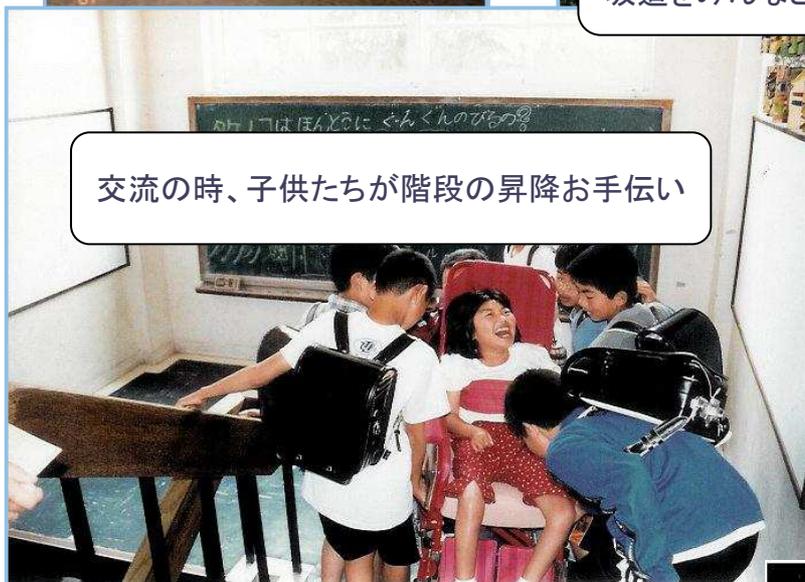
由佳さんの成長の軌跡



ゆか 2才
手前は弟



地元学校との交流で遠足
坂道をみんなと一緒に登る



交流の時、子供たちが階段の昇降お手伝い



③ 視覚障がいがある方の生活について

{高田 富久子さんが自分自身で生活の様子を話す}

《ねらい》

・当事者とのふれあい

私は生まれた時から身体が弱く、強度の弱視のため、ぼんやりとしか見えなかったので、物にぶつかったり、物をけったり、よく転んで傷の絶え間がない子どもでした。

盲学校へ行くことを薦められましたが、両親の成績は悪くてもいいから、そばにおきたいとの思いがあり(中部には盲学校がない)皆さんと同じ一般校で学びました。それだけに先生方には大変迷惑をおかけし、お世話になりました。

一番前の席でも天気の良い日は黒板の字が見えなくて困ったこと、体育での球技では、玉が見えなくて危ないこともありました。特に音楽は席から黒板が遠くて、見えなかったことを思い出します。

中学3年の秋、高校入試を前にして、掃除機の棒で目を打ち、網膜剥離をおこし、失明寸前になりましたが、奇跡的に助かりました。私の人生で一番苦痛と不安の時期でしたが、色々な課題を努力で乗り越えた体験が、私の心の原点であり、自信につながった様に思います。

小中学校の時は牛乳瓶の底のような厚いレンズのめがねをかけていました。

私が、高校1年の頃に普及し始めたコンタクトレンズを、はめたところ、0.8～0.9見えたのです。

目の前の世界が広がり、本当に感動しました。(どの程度見えるのか視力検査表を準備)

高校卒業後は、身体も健康になり普通に働くことができるようになり、ミニバイクに乗ることもできました。

私が、近年まで少しでも見え、生活ができたのは、母の祈りと名医に恵まれたこと、そして両親が住みなれた地域で生活することを選んでくれたことと感じています。

そして何よりも、中学3年の時の恩師のご尽力や友人の方々に親切にして頂いたおかげと心から感謝しています。

私の生活

① 外出・買い物

目が不自由な人はそれぞれ状況が違います。盲導犬や白杖(はくじょう)を利用して歩いている人もいます。

私の場合は視神経の委縮でスリガラスをかけているような目なので、一人では歩けません。家族や友達、または、ヘルパーさんに付いてもらって歩きます。

買い物では、商品の様子を教えてもらいながら買います。自分で行くのが困難な時は、メモに書いて買い物をしてもらいます。

② 読み書き伝達

文字を書いたり読めないので、携帯電話、アイシーレコーダー、プレイクストーク、パソコンなどを利用します。

携帯には辞書、予定や記録、電卓、等色々な機能があり便利です。音声ガイドに従っていけば、聞くことも、入力することもできます。

パソコン等は音声ガイドで利用しています。画面の色は黒で白い大きな字が出るようにしています。

毎月の市報、県政だよりは、奉仕団の方々がふきこんで下さるテープで聞きます。倉吉図書館からも朗読図書を借りて聞いています。

③ 家事

家の中は良く物にぶつかりますが、慣れているので一人でも大丈夫です。家族の協力を得ながらなんとか家事をこなしています。

棚や冷蔵庫等の、品物に自分の物が分かるように輪ゴムをかけたり、シールを付けたり工夫をしています。「これは何?」「何々はないかな?」とか、周りに声かけをしています。特に炊事は、せっかく茹でた野菜やうどん等をザルに移したつもりが、流しに流しちゃったり、色々たくさんの失敗を重ねましたが、気をつけて頑張っています。

みなさんへ伝えたいこと。お願いしたいこと。

見えない人は耳から情報を得るため、耳を澄ませて聞いています。はっきりと少しゆっくり話して下さい。

声をかけて下さる時は、ちょっと手で肩などにふれてから、〇〇ですと、自分の名前を言ってから、「困っていませんか」「こちらですよ」と教えてもらえると助かります。

移動するときに、一番困るのは、後ろから支えるようにして、押されることです。とても不安になります。私の場合は前に立ってもらって、肩とか腕を持たせてもらい先に歩いてもらうと安心です。

現在、国の支援制度が充実していて、ヘルパーさんに付いてもらうので、一人での行動はしませんが、町の中には、盲導犬や白杖（はくじょう）を持って一人で歩いている方もいます。障がい者の方だけでなく、見えにくそうに歩いている老人の方もいます。温かく見守ってほしいです。危険と感じた時は、声をかけて欲しいです。また、駅や町の中や病院、店舗の中に点字ブロックが敷いてあったり、駐車場に車いすのマークが付いています。そこに車、自転車や物を置いたりしないで下さい。見えない人にはとても危険です。身体の不自由な人が困ることを知ってほしいです。

となりの人の物と自分のものと判断ができなくて困ることがあります。

周りの方に迷惑をかけることもあります。

なるべく自分の方から尋ねるようにしていますが、そっと教えてもらえると嬉しいです。(困っているようなことをしていても自分ではわからないので)

私には親切なお友達がいて守ってもらいました。中学3年の冬には、手術後の私が雪道で転ばないようにと、毎日、腕を組んで学校に連れて行ってくれました。障がい者になり色々できなくなり辛く思うことはありますが、皆さんの暖かい気持ちを感じながら、明るく前向きにがんばっています。

私は鳥取県身体障害者福祉協会の視覚部に所属しています。生活を支援するための訓練が受けれます。

私はパソコンも教えてもらい、今、とても助かっています。そして、人との交流を大切にと思い、研修会に参加したり、有志で楽器を楽しんで生活をしています。

《体験してみる》

補助用具の説明（実物持参）

- ・アイシーレコーダーについて
- ・プレイクストークについて

話の中に出てきた、携帯電話等の利用を実際に見せてもらうなどをする。

④ 発達障がいのある方を理解する

{ペアレントメンター鳥取の方が活動します}

《ねらい》

- ・発達障がいの特徴や困り感、接し方について説明をし体験を含めて分かりやすく説明をします。
- ・「障がい」という言葉を使用せず、「苦手なこと」と読み替えて分かりやすく進めます。参加者に「自分の苦手なこと」を発表してもらい、「みんなが苦手を持っていて、それぞれに工夫したり助け合ったりしている」こと、「健常者であっても病気やけが、老化等によって助けが必要になることがある」ことに気づいてもらうように促します。

① DVD視聴（日本自閉症協会作成）

- ・30分程度
- ・映像でわかりやすく発達障がいを説明しているDVDです。

② 疑似体験

参加者のみなさんに実際に体験してもらい、「こんな気持ちなんだ」「こんな風にして接して欲しいんだ」と、当事者の気持ちを共有してもらうことを目指します。

・見え方体験

底に小さな穴をあけた紙コップからスクリーニングに映し出した写真を覗き、何であるか当てるクイズ。ものの全体ではなく一部しか見えない、全体をみることができない「シングルフォーカス」の疑似体験です。

・聞こえ方体験

スタッフ5人が一度に別々の文章を読み上げ、それぞれ何について言っているのか当てるクイズ。自分に必要な音を聞き分けるのが苦手な感覚障がいの疑似体験です。

・その他の体験

「言葉が伝わらない体験」

「手の感覚・折り紙体験」など

③ 接し方について

具体的な場面設定をした寸劇を通して、どのように接すれば良いのか説明します。

・寸劇

(例) 小学生の級友同士という設定で、「曖昧な言葉での指示」と「複数の指示を一度に出す」の②場面を再現して「好ましくない対応」の次に「好ましい対応」を演じて分かりやすく説明をします。

⑤ 知的障がいのある方を理解する。

{絵本を利用しながら説明をする}

《ねらい》

- ・ 知的障がいを正しく理解し身近なことと感じる
- ・ グループワーク学習
- ・ 絵本から抜粋した場面紹介しその後、寸劇で実施して知的障がいのある方との関わりを考えます。

《絵本を紹介しながら知的障がいのある方のイメージを膨らませる》

《寸劇シナリオ》

(グループで発表者を1名決めておく)

進行者「それではこれから、知的障がいのある人がどのようなことに困っているのか、ある1部を紹介する劇をします。ではレンジャーさんお願いします。」

(レンジャー2名が前に出る)

進行者「ではここで、役割を紹介します。(札を下げて分かりやすくする) 知的障がいのある役Aさん、もうひとりとは〇〇小学校〇年生(・・・活動する学校、学年にあわせる) Bさんです。」

「これから2人に演じてもらいますが、実はこれから演じてもらう中で、Aさんは困ってしまいます。劇の後に、どうしてAさんは困ってしまったのか?そして、どうすればよかったのかを各班で話し合ってもらいますので、よく見ていて下さいね」

(進行者がナレーターで、Aさん役、Bさん役、3名で進行)

ナレーター「Bさんのクラスは今日、養護学校のみんなとの交流会にやってきました。

これからみなさんが〇〇小学校と養護学校のみなさんが、それぞれ2人組みになって楽しく遊ぼうとするところです。」

Bさん「こんにちは。〇〇です。」(早口で2回言う)

Aさん「・・・。」

Bさん「名前はなんていう?」(近くに顔を近づけ、覗き込む)

Aさん「・・・。」(顔を背ける)

Bさん「なんかして遊ぼうや!なにして遊ぼうか?」(早口で)

Aさん「・・・。」(目が合わない)

Bさん「なあ、なんでもええけ、遊びたいこといってみて〜?なにしたい?」

Aさん(無言で上をみたり横をみたりおおげさにきょろきょろしながら去っていく)

ナレーター「はい。ありがとうございました。(拍手)これから10分間、各班で、Aさんはなぜだまったのか?何に困っていたのでしょうか?また、Bさんはどうすればよかったのでしょうか?それでは、今から10分間なので〇〇時まで話し合っ用紙に書き込んで下さい。そのあとで、発表してもらいます。」

※ポイント・・・①ゆっくり話すこと ②相手との距離を考えて話すこと ③「何したい？」は返答が難しいので具体的に話すこと

(レンジャーは各班でポイントに近づけるように誘導・助言をする)

ナレーター「では、1班から発表をして下さい。」

(すべて班が発表をおえたら)

ナレーター「みなさん、いいところに気がつかれたと思います。(出た意見を具体的に貼りだされた紙見ながら評価をする・・・)では、今度は、みなさんの意見も参考にしながら、Aさんが困らないようにするやり方をレンジャーさんにやってもらいましょう。レンジャーさんお願いします。」

(レンジャー2人が前が出る)

ナレーター「それでははじめます。Bさんのクラスは今日、養護学校のみなどとの交流会にやってきましたこれからみんなが〇〇小学校と養護学校のみんながそれぞれ2人組になって楽しく遊ぼうとするところです。」

Bさん「こんにちは〜。」(ゆっくり)

「〇〇小学校からきた、〇〇と言います」(適度な距離をとり、顔を見ながらゆっくり話す)

「あなたの名前はなんと言いますか？」(ゆっくり)

Aさん「・・・〇〇。」(ぼそっと名前を言い、体をゆらす)

Bさん「〇〇くん、今日は2人で楽しく遊ぼう！」(ゆっくり、楽しそうに)

Aさん「・・・。」(無言だが、Bさんを時々みながら体をゆらす)

Bさん「〇〇くん、サッカーボールで遊ぶのと、うさぎを見に行くのとどっちがいい？」

Aさん「・・・うさぎ。」(にこっとして、体をゆらす)

Bさん「じゃあこっちだよ。」(さりげなく手をつなごうと手をさし出す)

Aさん(手をつなぐ)

(手をつなぎながら一緒に去る)

進行役「はい。ありがとうございました。みなさんが話し合ったように、少しやり方を変えたことで、随分と変わりましたね。最初の場合、Aさんは帰ってしまいましたが、2回目にしたのは手をつないで仲良くなれました。」

(まとめ)

「1回目と2回目では何が違っていたのでしょうか。みなさんのクラスにも色々な人がいるように、障がいのある人もいろんな性格や特徴をもった人がいます。「大切なのは、どうすれば情報がうまく相手に伝えるかを、その人の立場になって考えてみる。」ということです。もしかしたら、こうした方がわかりやすいのではないかとか、こんなことに困っているのではないかとといったことに気付くことは、とても素晴らしいことです。このことは、知的障がいがある人だけでなく、クラスの友達のことを考える時でも大切なことです。

これからも、「相手の立場になって考える」という気持ちを大切にしましょう。

※ポイント・・・知的障がいの方は“こんな”と伝えることが真の目的ではなく、知的障がいのある人も含めいろいろな人と接するなかで、自分尺度で物事をはかることなく、相手の人権を尊重しながらよりよい人間関係づくりをめざすということに着目してもらうこと